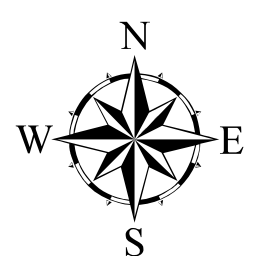
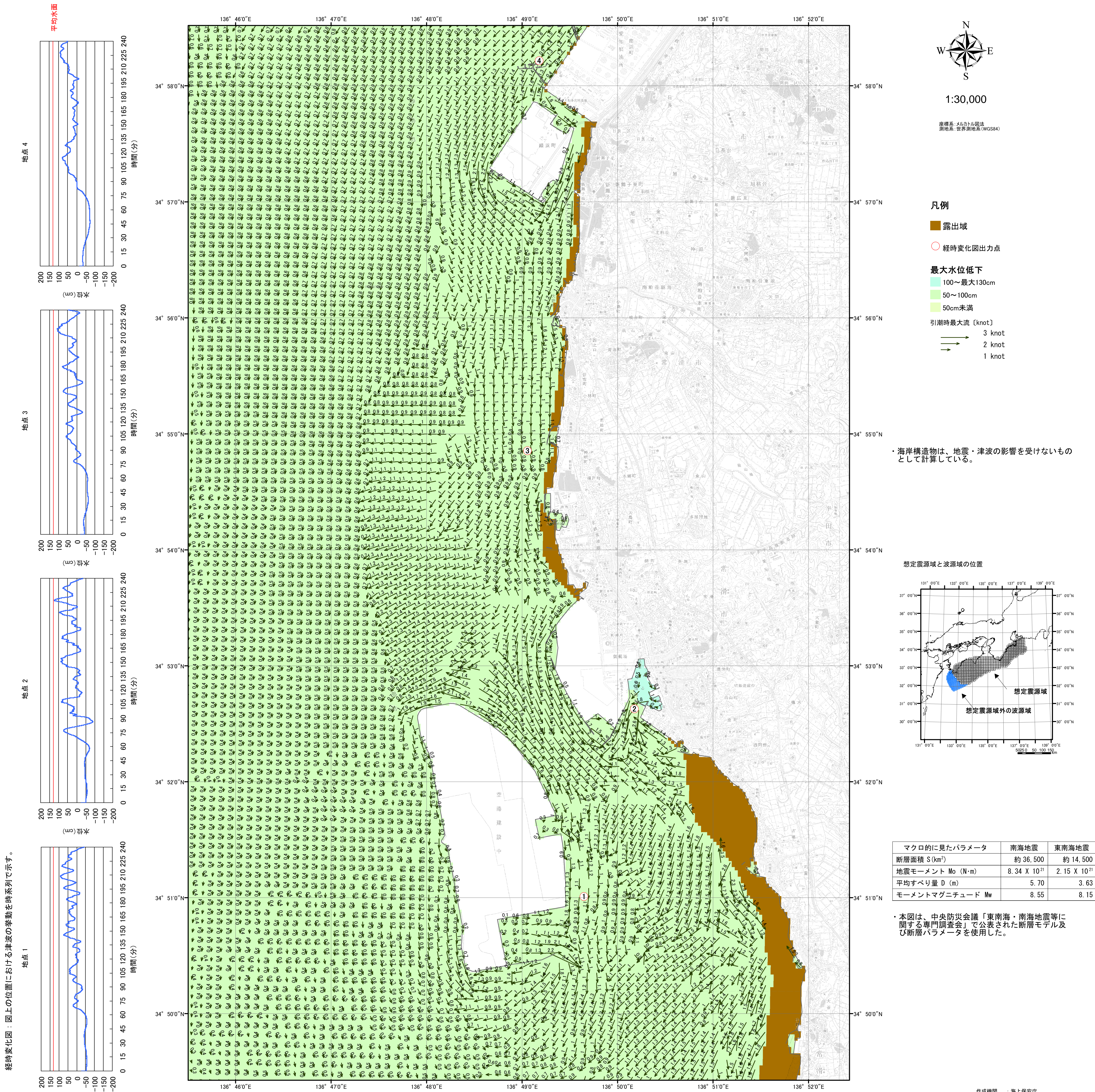


# 名古屋港南部 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面  
隆起量：平均 -46cm(-61cm ~ -33cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:30,000

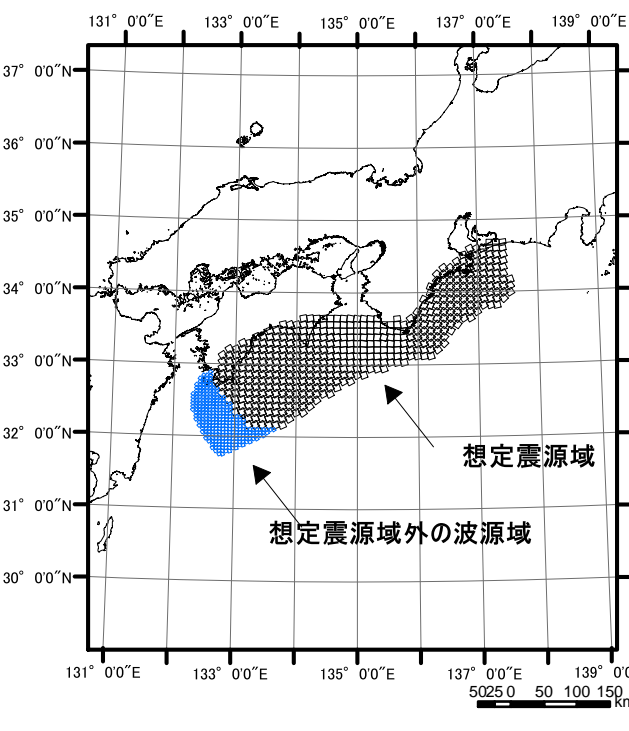
座標系：メルカトル法  
測地系：世界測地系(WGS84)

### 凡例

- 露出域
- 経時変化図出力点
- 最大水位低下
  - 100~最大130cm
  - 50~100cm
  - 50cm未満
- 引潮時最大流 [knot]
  - 3 knot
  - 2 knot
  - 1 knot

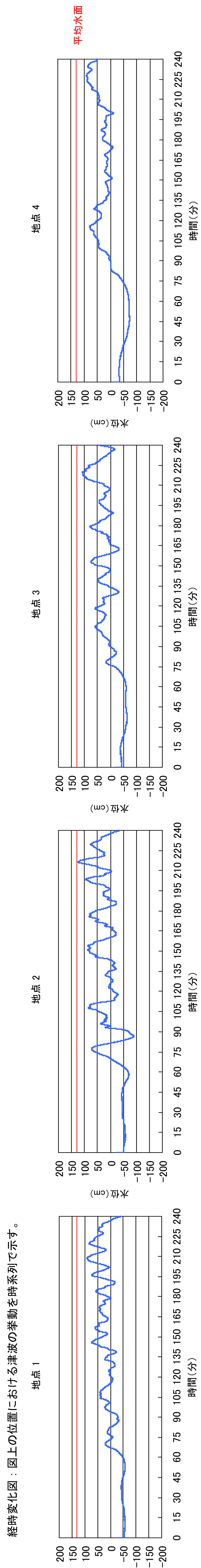
・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

### 想定震源域と波源域の位置



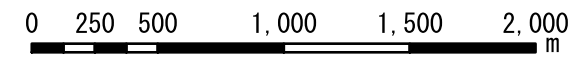
マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km <sup>2</sup> )	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 <sup>21</sup>	2.15 X 10 <sup>21</sup>
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。



経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。  
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平15総使、第673号)  
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平15総使、第672号)



作成機関：海上保安庁  
作成年月：平成16年 3月(初版)